取扱説明書〈 TA 〉

この度は、当社製品をお買い上げいただきありがとうございました。
この時計を末永くご愛用いただくため、本取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用下さいますようお願い申し上げます。
尚、この取扱説明書はお手元に保管し、必要に応じてご覧下さい。

ご使用になられる方や他の人への危害及び財産の損害を未然に防ぐため、次の表示で区分されている内容につきましては必ずお守り下さい。

⚠警告… この表示の欄は、表示内容と異なった使い方をしたときに『死亡または重傷などを負う可能性が想定される』内容です。

⚠注意… この表示の欄は、表示内容と異なった使い方をしたときに『人的傷害または物的傷害のみが発生する可能性が想定される』内容です。

◆製品の特徴

①この時計は、アナログ水晶発振式時計です。
②現在時刻を、時針・分針・小秒針で表示します。
③時刻表示の他にカレンダー機能（日付）とクロノグラフ機能（1／5秒単位ー30分計）及びアラーム機能（12時間制）が付いています。
④クロノグラフ機能においては、スプリットタイム（スタートからある区間までの途中経過時間）も計測できます。
⑤電池の寿命が終りに近づくと、小秒針が2秒間隔で動いて知らせてくれます。（電池寿命切れ予告装置）

◆製品仕様

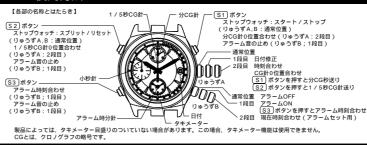
1. 水晶振動数 …32,768Ｈｚ（1秒間の振動数）
2. 携帯精度 …平均月差±20秒（5℃〜35℃において腕につけた場合）
3. 作動温度範囲…－5℃〜＋50℃
4. 駆動方式 …ステップモーター方式
5. 機能…3針（時針・分針・1/5秒CG針）＋3副針（分CG針,小秒針,アラーム時・分針）1秒ステップ運針（小秒針),クロノグラフ機能,アラーム機能
6. 付加機能 …秒針規正装置,リセットスイッチ,積算計測，スプリット機能，電池寿命切れ予告装置
7. 使用電池 …SR927W(SEIZAIKEN又はMAXELL)1個
8. 電池寿命 …新しい電池組み込み後、約2年
※但し、1日のストップウォッチを60分間、アラームを20秒間それぞれ使用した場合です。

※製品仕様は改良のため、予告なく変更する場合があります。
※CGはクロノグラフの略号です。

◆ご使用方法

【各部の名称とはたらき】

※製品によっては、タキメーター目盛りのついていない場合があります。この場合、タキメーター機能は使用できません。
※CGとは、クロノグラフの略号です。

【クロノグラフ（CG）針の0位置の合わせ方】

ご使用の前にクロノグラフ（CG）用各針（1／5秒CG針・分CG針）が0位置（12時位置）に合っているか確認して下さい。
ストップウォッチが計測中の場合には、次のボタンをリセットしてから0位置確認をして下さい。
※クロノグラフ用各針が動いている状態：ボタン S1 → S2
※クロノグラフ用各針がストップ状態：ボタン S2
※クロノグラフ用各針がスプリット状態：ボタン S2 → S1 → S2
※詳しくは、【ストップウォッチの使い方】の項をご参照下さい。
万一クロノグラフ用各針が0位置からずれている場合には、次の手順によって合わせて下さい。

①りゅうずAを2段目まで引き出します。

②S1 ボタンを押して、分CG針を0位置に合わせます。
S2 ボタンを押して1／5秒CG針を0位置に合わせます。
※S1 S2 ボタンは1回押すごとに1ステップ、押し続けると連続して針を送ることができます。

③りゅうずAを通常位置に押し込みます。

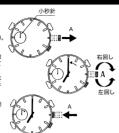
【時刻の合わせ方】

①りゅうずAを2段目まで引き出すと小秒針が止まります。
小秒針は60秒の位置（12時方向）に止めて下さい。

②りゅうずAを回して時刻を合わせます。
※正確に合わせるために、分針を正しい時刻より数分進めてから、逆に戻して正しい時刻に合わせて下さい。
※カレンダー付の時計のため午前・午後を間違えないようにセットして下さい。日付が変わる時が午前0時となります。

③時報と同時にりゅうずAを押し込みます。時計は動きはじめます。

【カレンダー（日付）の合わせ方】

①りゅうずAを1段引き出します。
この時計のりゅうずは2段に引き出せます。

②りゅうずAを右に回しながら今日の日付に合わせます。

⚠注意

※次の時間帯を針が示している時はカレンダーの切換作動中となりますのでカレンダー修正は避けて下さい。
＊午後9時〜午前2時
この時間帯にカレンダー修正をしますと、翌日になってもカレンダーが変わらないことや故障の原因となる場合があります。やむを得ずこの時間帯に修正するときには、一旦りゅうずを2段目まで引き出し、針をこの時間帯から移動させて行って下さい。

③りゅうずAを押し込みます。

◆月末の日付修正について
2月（28日・29日）と小の月（30日）は日付の修正が必要になりますので、翌日の1日になりましたら、日付を「1日」に合わせて下さい。

【アラームの使い方】

●12時間制で1分単位までセットできます。

アラームを使用する前にアラーム針を現在時刻に合わせます。

①りゅうずBを2段引き出します。
※りゅうずBを2段引き出すと、約1秒間警告音がなります。
警告音が鳴り終ると、あらかじめセットしてあったアラーム時刻はキャンセルされます。
（但し、鳴っている最中にりゅうずBをもどせばキャンセルされません。）

アラーム時分針

②りゅうずBを回して、アラーム時分針を現在時刻に合わせます。

③りゅうずBを通常位置へ押し込みます。

アラーム時刻のセット

①りゅうずBを1段引き出します。
※このときアラーム音が、約1分間鳴り続けますが、S1 S2 S3 いずれかのボタンを押すとアラーム音は止まります。

② S3 ボタンを押してアラームを鳴らしたい時刻にセットします。
※ S3 ボタンを1回押すと1分ずつ進み、押し続けると早送りできます。

アラームのON・OFF

①アラームのON・OFFはりゅうずBで行います。
＊アラームON… りゅうずBが1段目の状態
＊アラームOFF…りゅうずBが通常位置の状態

※アラームはセットした時刻に約20秒間鳴ります。
※アラーム音を途中で止める場合は、S1 S2 S3 のいずれかのボタンを押すか、りゅうずBを通常位置に押し込んで下さい。

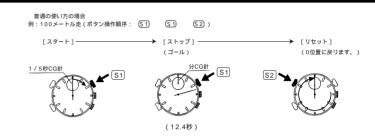
［アラームON］
アラームセット時刻を表示
＊アラームONのとき、アラーム時分針はアラームをセットした時刻を表示します。

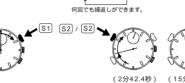
［アラームOFF］
現在時刻を表示
＊ アラームOFFのとき、アラーム時分針は現在時刻を表示します。

【ストップウォッチの使い方】

ご使用の前にクロノグラフ用の各針が0位置にあるか確認してください。
万一合っていない場合には、前記の【クロノグラフ（CG）針の0位置の合わせ方】を参照して下さい。
※ストップウォッチはりゅうずA、Bを通常の位置でご使用ください。
（尚、りゅうずAが1段目の場合においても、ストップウォッチ機能は作動します。）
※測定可能時間は1／5秒単位、最大30分間です。
※ストップするのを忘れた場合は、ストップウォッチが作動してから6時間後に自動的に止まります。
※ストップウォッチ作動中にりゅうずAを2段目、またはりゅうずBを1段目・2段目に引き出した場合、ストップウォッチは停止し、針が0位置に戻りますのでご注意下さい。
※アラームON（りゅうずBが1段目）の状態のとき、ストップウォッチ機能は使用できません。

◎普通の使い方の場合
例：100メートル走（ボタン操作順序： S1 → S1 → S2 ）

［スタート］ → ［ストップ］（ゴール） → ［リセット］（0位置に戻ります。）

◎時計計測を積算で行う場合
例：バスケットボール（ボタン操作順序： S1 → S1 ／ S1 ……→ S1 → S2 ）

［スタート］（試合開始） → ［ストップ］／［再スタート］（試合中断）（試合再開） ……→ ［ストップ］（試合終了） → ［リセット］（0位置に戻ります。）
何回でも繰返しができます。

◎スプリットタイム（途中経過時間）計測を行う場合
例：5,000メートル走（ボタン操作順序： S1 → S2 ／ S2 ……→ S1 → S2 ）

［スタート］ → ［スプリット］／［スプリット解除］ ……→ ［ストップ］（ゴール） → ［リセット］（0位置に戻ります。）
何回でも繰返しができます。

◎2人のタイムの計測を行う場合
例：100メートル競走（ボタン操作順序： S1 → S2 → S1 → S2 → S2 ）

［スタート］ → ［ストップ］（1位のゴール） → ［ストップ］（2位のゴール） → ［表示］（2位のタイム） → ［リセット］（0位置に戻ります。）
この間、針は1位のタイムを示しています。

S1 S2 S1 S2 S2
（11.0秒） （12.4秒）

【システムリセットについて】

万が一、各機能針の動きが不規則になった場合は、次の方法でシステムリセットを行って下さい。

①りゅうずAを2段目まで引き出します。

② S1 と S2 のボタンを同時に押します。（システムリセットがかかります。）

③クロノグラフ針の0の位置を合わせます。
※合わせ方は、前記記載の【クロノグラフ（CG）針の0位置の合わせ方】を参照して下さい。

④りゅうずを通常位置に押し込みます。

◆回転ベゼルの使い方

＊モデルによって、ダイバータイプ（経過・残り時間）やワールドタイムタイプ（各都市の時刻）が付いているものがありますので、お買い求めの時計をご確認の上、正しくご使用下さい。
1．ダイバータイプの使い方
①回転ベゼルを回して、▽マークを分針に合わせて下さい。
②ある時間が経過した後に分針の示す回転ベゼルの数字を読むことにより、経過時間を知ることができます。
③また目的時刻に合わせておくことにより、残り時間を知ることもできます。
④回転ベゼルは逆回転防止機構の付いた、1分間隔のラチェット装置が付いていますので、ショックによる不用意な回転を防止し、また目盛のセットがしやすくなっています。
※製品によっては、逆回転防止機構及び1分間隔のラチェット装置が付いていないものもあります

上図は、10時10分から20分経過したことを示しています。

【タキメーターの使い方】

タキメーターとは、一定区間（1km）を通過するのに要する時間を測定して平均時速を知ることができる機能です。
また、単位時間（1時間）あたりの出来高を知ることもできます。
モデルによっては、ベゼルまたは文字板にタキメーター（TACHYMETER)の目盛りが印刷されているものがありますので、お買い求めの時計をご確認の上、次の操作方法をご参照下さい。

①スタートまたは製品の作り始めと同時にスタートボタン S1 を押します。

②1km地点または製品作り終わりと同時にストップボタン S1 を押します。

③1/5秒CG針が指しているタキメーター（目盛り）の数字を読みとります。（この例の場合、タキメーター数値は80を示しているため、平均時速80kmまたは1時間あたり80個の出来高ということになります。）

※タキメーターの測定時間が1分間以内の場合に限ります。
1分を越えた場合については、平均時速又は1時間あたりの出来高の読みとりができませんので予めご了承下さい。

◆お取り扱いにあたって

（1）防水性能について

⚠警告

①日常生活用防水（3気圧）の時計は、洗顔等には使用できますが、水の中に入れてしまうような環境での使用はできません。
②日常生活用強化防水Ⅰ（5気圧）の時計は、水泳などには使用できますが、スキンダイビングを含めて全ての潜水には使用できません。
③日常生活用強化防水Ⅱ（10・20気圧）の時計は、スキンダイビング（素潜り）には使用できますが、空気ボンベを使用するスキューバー潜水及びヘリウムガスを使用する飽和潜水などには、使用できません。

タイプ ＼ 使用条件		●一時的にかかる水滴（洗顔・雨など）	●水泳・ヨットなどの水上スポーツ、漁業・農業などの水仕事 水道の蛇口等強い水流	●空気ボンベを使用しないスキンダイビング	●スキュバーダイビング（空気ボンベ使用）	●水中でのりゅうず操作並びに水滴のついたままでのりゅうず操作
非防水	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示のない時計。	×	×	×	×	×
日常生活用防水	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示のある時計。	○	×	×	×	×
日常生活用強化防水Ⅰ	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示とともに裏ぶた又は、文字板に5BAR表示のある時計。	○	○	×	×	×
日常生活用強化防水Ⅱ	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示とともに裏ぶた又は、文字板に10BAR、15BAR又は20BAR表示のある時計。	○	○	○	×	×

※時計の文字板または裏ぶたにある防水性能表示をご確認に上、上記使用可能範囲にそって正しくご使用下さい。

⚠注意

④りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用下さい。りゅうず及びボタンがねじロック式のものであれば、しっかり締め込まれているか確認して下さい。
⑤水中あるいは水分のついたままりゅうず及びボタン操作しないで下さい。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
⑥非防水時計については、一時的にかかる水滴（洗顔時の水はね・雨など）や汗にはご注意下さい。万一、水や汗でぬれた場合には乾いた柔らかい布で水分を拭き取って下さい。
⑦日常生活用防水時計でも、勢いのある水道の水を直接あてるなどのことは避けて下さい。リミット以上の水圧がかかり防水不良となる場合があります。
⑧日常生活用強化防水時計の場合、海水に浸かった後は、ケースについた海水をよく洗い流し、洗った後はよく拭き取りサビなどが出ないようにして下さい。
⑨皮革バンドは材質の特性上、水にぬれると耐久性に影響がでる場合があり、脱色・接着はがれなどの不具合も起こすことがありますので、特に水の中で使う場合には、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上、ご使用下さい。
⑩時計内部には多少の湿気がありますので、外気が時計内部の温度より低いときにはガラス面がくもる場合があります。くもりが一時的の場合には内部に支障はありませんが、長時間消えない場合や時計内部に水分が入っている場合には、そのまま放置せず、お買い上げ店、またはオリエント時計サービスセンターにご相談下さい。

（2）電池の取扱いについて

⚠警告

①電池は幼児の手の届かないところに保管して下さい。万一、飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談下さい。
②取り出した電池は、火の中に捨てないで下さい。破裂する場合があります。
③充電用電池ではありませんので、充電はできません。充電を行いますと発熱・破裂する場合がありますので行わないで下さい。

（3）電池交換について

⚠注意

①電池が切れたままで長時間放置しますと漏液等により故障の原因となることがありますので、お早めに電池交換して下さい。
②電池交換の際には必ず指定の電池をご使用下さい。
③電池交換は専用の工具・技術等を必要としますので、お買い上げ店またはオリエント時計サービスセンターにお申しつけ下さい。
④電池交換する場合には、電池の陽陰極性をまちがえて組み込むと発熱・破裂する場合がありますので、正しく行って下さい。
⑤電池寿命切れ予告機能が付いています。
秒針が1度に2秒送るようになると、電池寿命切れが間近であることを示しています。お早めにお買い上げ店で電池交換をご依頼下さい。
⑥電池交換後のお願い
電池交換後は、時刻合わせおよびアラーム時分針の時刻合わせを行って下さい。
（→【時刻の合わせ方】、【アラームの使い方】を参照）

（4）ショックについて

①ゴルフなどの軽いスポーツによる影響はありませんが、激しいスポーツの場合は取り外して下さい。
②床面に落とすなど激しいショックは与えないで下さい。

（5）磁気について

①家庭用電気製品程度の磁気には心配ありません。

⚠注意

②磁石、磁気健康器具（肩こり治療器・腕輪など）、電気マージャン台などの強い磁気を発生するものには、近づけないで下さい。
③時計にANTIMAG.ⅠまたはANTIMAG.Ⅱと表示してある時計は磁気に耐えられる性質を強化してありますが、強い磁気を発生する器具に密着またはより近づけることはお避け下さい。
●ANTIMAG.Ⅰ… 4,800A/m（ 60ガウス）
●ANTIMAG.Ⅱ…16,000A/m（200ガウス）まで耐えられます。
④強い磁気を発生する所に長時間放置しますと部品が磁化して、故障の原因となることがありますので、ご注意下さい。
⑤磁気の影響を受けると一時的な進み遅れが生じることがありますが、磁気から遠ざけると元の精度で動きます。この場合は時刻を修正して下さい。

⑥発生する磁気の強さは表を参考にして下さい。

● 身の回りの磁気製品・電気製品の磁界の強さ

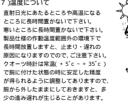
製品名	磁界の強さ（単位:A/m）密着状態	判定 ANTIMAG Ⅰ	判定 ANTIMAG Ⅱ	磁界の強さ（単位:A/m）5cm離れた状態	判定 ANTIMAG Ⅰ	判定 ANTIMAG Ⅱ
紙止め用磁石（DC）	23,900〜71,600（300〜900ガウス）	×	×	200〜1,200（2.5〜15ガウス）	○	○
テレビ（AC・DC）	500〜1,200（6〜15ガウス）	○	○	0〜400（0〜5ガウス）	○	○
冷蔵庫の開閉部磁石（DC）	31,800〜63,700（400〜800ガウス）	×	×	400〜3,200（5〜40ガウス）	○	○
電話機のスピーカー部（DC）	2,400〜3,600（30〜45ガウス）	○	○	300〜400（4〜5ガウス）	○	○
電気カミソリ（AC）	6,400〜11,900（80〜150ガウス）	×	○	400〜800（4〜10ガウス）	○	○
音響製品のスピーカー部（DC）	600〜20,000（8〜250ガウス）	△	△	0〜3,200（0〜40ガウス）	○	○
各種家具の開閉部磁石（DC）	47,800〜63,700（600〜800ガウス）	×	×	800〜1,200（10〜15ガウス）	○	○
磁気パッド（DC）	47,800〜119,400（600〜1,500ガウス）	×	×	0（0ガウス）	○	○
磁気ネックレス（DC）	63,700〜95,500（800〜1200ガウス）	×	×	40〜80（0.5〜1ガウス）	○	○
ハンドバッグの開閉部磁石（DC）	28,700〜63,700（360〜800ガウス）	×	×	0〜240（0〜3ガウス）	○	○

※ 判定の ○ は影響無し、× は影響有り、△ は製品・機種によって異なります。
※ 上表の数値は目安です。磁界の強さは磁気製品・電気製品の機種により強弱が異なります。
※ 磁界の強さは距離の二乗に反比例しますので、密着状態と少し離れた状態でその数値は大きく異なります。

（6）振動について

オートバイ、削岩機、チェーンソーなどの強い振動が加えられた場合、一時的に遅れる場合があります。

（7）温度について

①直射日光にあたるところや高温になるところに長時間置かないで下さい。
②寒いところに長時間置かないで下さい。
③製品仕様の作動温度範囲外の環境下で長時間放置しますと、止まり・遅れの原因になりますのでので、ご注意下さい。
④クオーツ時計は常温（＋5°c〜＋35°c）で腕に付けた状態の時に安定した精度が得られるように調整してありますので、腕から外したままにしておきますと、多少の進み遅れが生じることがあります。

（8）化学薬品・ガスなどについて

ガス、水銀、化学薬品など（シンナー・ガソリン・各種溶剤、またはそれらを含むクリーナー・接着剤・塗料・薬品・香水・化粧品類）が触れるとケース、バンド、文字板の変色や樹脂部品では、変色、変形、破損する場合がありますので十分ご注意下さい。

（9）付属部品について

⚠警告

バンドやピン等は乳幼児の手の届かないところに保管して下さい。万一、飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談下さい。

（10）高温下での使用

⚠注意

サウナなどの高温下での装着は、火ぶくれ（火傷）になる可能性がありますので、ご使用をお避け下さい。

◆かぶれやアレルギーについて

⚠注意

体質により皮革・金属・軟質及び硬質プラスチックなどにて皮膚がかぶれたり、肌に異常が認められたときは、直ちにご使用を中止し、専門医にご相談下さい。

◆ルミナスライトについて

商品によっては、針・文字板等にルミナスライトを使用しているものがあります。
ルミナスライトは放射性物質を含まない安全な蓄光塗料（光を蓄えて発光する塗料）です。太陽光や照明光等の光を塗料に蓄えて発光します。なお、蓄えた光を発光させていますので、輝度（明るさ）は時間の経過とともにだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際、ガラスの形状・蓄光材の厚み・まわりの明るさ・時計との距離・光の吸収度合などの諸条件により、発光の強さや時間には誤差を生じます。光の蓄え方が弱い場合、発光が弱かったり発光時間が短いことがありますのでご注意ください。

◆耐水処理バンドについて

商品によっては、汗や水に触れても吸収しにくい特殊な処理を施した皮革・ナイロンバンドを使用しているものがあります。このバンドの耐水性は使用期間・使用条件により、効果が劣化しますのでご了承下さい。

◆銀製品について

商品によっては、ケース・バンドが銀及び銀メッキのものがあります。銀の性質として、酸化物・硫化物（空気中や人体老廃物など、身の回りに多く存在します）と反応して表面の色合いが黒く変色します。このような場合は、銀製品用クロスで拭いて下さい。元の色合いに戻ります。

◆長くご愛用いただくために

⚠注意

(1) ケース・バンドのお手入れ
①ケース・バンドなどに付着した汚れや水分は時計機能を損なったり、皮膚の弱い方のかぶれや衣類の袖口を汚す原因となる場合があります。末永くご使用いただくために柔らかい布などで拭き常に清潔にしてお使い下さい。特にバンドは肌着類と同様、直接肌に接していますので、定期的に次の方法で汚れを取りご使用下さい。
【ケース】
汚れを柔らかい布などで拭き取って下さい。薬品などは変色の原因となりますので、使用しないでください。
【金属バンド】
石鹸水を付けた柔らかい歯ブラシで部分洗いをして下さい。このとき、非防水時計は水がケースにかからないように注意して下さい。汚れたままにしておきますと腐食・サビの原因ともなります。
【皮革バンド】
乾いた柔らかい布で、水分・汚れを取り除いて下さい。こすると、色落ちすることがありますので注意して下さい。
【軟質プラスチックバンド】
ウレタン・ナイロンなどのバンドは特に手入れの必要はありませんが、汚れがひどくなりますと皮膚がかぶれたりする場合がありますので、時々石鹸水または水で洗って下さい。薬品などは変質の原因となりますのでご使用にならないで下さい。また使用期間によっては、材質が硬くなり、折れたり割れたりする場合がありますので、その際は新しいバンドと交換して下さい。
②ケースおよびバンドに水銀（体温計など）・薬品などが付着すると変色する場合がありますのでご注意下さい。
③バンドは指1本が入る程度の余裕を持たせ通気性をよくしてご使用下さい。また、皮革バンドは高温多湿になる場所での保管は避けて下さい。
④ケースとバンドとの接合部や金属バンドの駒の接合部に使用しているピンが錆びると、バンドが外れたり時計が脱落したり、稀に怪我をすることがありますのでご注意ください。
(2) 回転ベゼルのお手入れ
回転ベゼル付きの商品はベゼルの下に汚れなどがたまり、機能が損なわれる場合がありますので、柔らかい歯ブラシで汚れを落とし清潔にしておいて下さい。
(3) 点検のおすすめ
①電池交換時または2〜3年に1度の点検をおすすめします。電池の漏液・汗・水分侵入の有無などお買い上げ店またはオリエント時計サービスセンターにお申し付け下さい。点検の結果によっては調整・修理を必要とする場合があります。
②定期点検をする際は、防水性能を保つために、パッキン等の交換をおすすめします。また、ばね棒も必要に応じて交換して下さい。
③部品交換のときは「純正部品」とご指定下さい。

◆保証とサービスについて

※保証書は必ずお読み下さい
1. 保証について
本製品が保証期間内に取扱説明書にそった正常なご使用状態で、万一故障が生じた場合には、保証書に従い無償で修理・調整いたします。保証書を添えてお買い上げ店またはオリエント時計サービスセンターにお持ち下さい。保証内容は保証書に記載されていますので必ずお読み下さい。
2. 補修用部品の保有期間について
この時計の補修用部品の保有年数は、生産終了後通常7年間を基準としています。
※補修用部品とは、
製品（時計）内部の時間機能のための機械体（ムーブメント）の部品です。
ケース・ガラス・文字板・針・バンド・りゅうずなど製品の機能維持と直接関係ない外装部品は含まれていません。これらの部品は、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承下さい。
3. 修理可能期間について
原則として、正常なご使用であれば補修用部品の保有期間中の修理は可能です。ただし、修理可能期間は、ご使用条件・環境で著しく異なり、精度の劣化も修理によっては初期精度の復元が困難な場合がありますので、修理ご依頼の際には、現品持参の上、お買い上げ店とよくご相談下さい。
4. ご転居・ご贈答品の場合について
ご転居・ご贈答品などで、お買い上げ店が遠隔地となり、保証サービスが受けられない場合にはお近くの当社サービスセンターにご相談下さい。
5. 電池について
①この時計の電池寿命は、新しい正常な電池を組み込んだ場合、その後約2年作動します。
ただし、1日のストップウォッチを60分間、アラームを20秒間それぞれ使用した場合としていますので、それ以上使用した場合は上記の期間に満たないうちに電池寿命が切れる場合があります。
②お買い上げ時の時計に組み込まれている電池はモニター用電池です。モニター用電池とは時計性能・機能を確認するため、工場出荷時に組み込まれていますので、お買い上げ後、所定の電池寿命に満たないうちに寿命が切れる場合があります。尚、モニター用電池は時計の価格に含まれていませんので、電池が切れた場合、保証期間内であっても電池交換は有料となりますのでご了承下さい。
6. 商品に関するお問い合わせについて
商品に関するお問い合わせは、お客様相談室へお問い合わせ下さい。
7. その他のお問い合わせについて
その他の保証とサービスについてご不明の点がありましたら、お近くの当社サービスセンターへお問い合わせ下さい。